

2017年 9月 19日

一般社団法人 日本自動車工業会

一般社団法人 日本自動車車体工業会

商用車架装物リサイクルに関する自主取組みの進捗状況について

本取組みは両工業会共同で2002年11月以降実施してきたものである。活動概要は以下のとおり。

- リサイクル設計の推進
 - (1)車体メーカー各社にて製品展開拡大中。
 - (2)環境基準適合ラベルの貼付目標80%達成済み。(2016年度91.2%)
 - (3)易解体性向上・解体マニュアル充実のため平ボデー、バン型車解体実験を実施。設計への反映、解体マニュアル記載内容見直しを推進。
- 環境負荷物質の使用削減
 - 鉛、六価クロム、水銀、カドミウムの4物質すべて目標達成を継続。
- リサイクル・適正処理の推進
 - 協力事業者制度の維持、継続中。
- 情報提供、啓発活動の推進
 - 関連事業者との情報交換継続。架装物チラシ・協力事業者制度参加事業者リストの配布継続、解体作業見学会実施、シャシー・架装物工場見学会実施。

自主取組みの内容

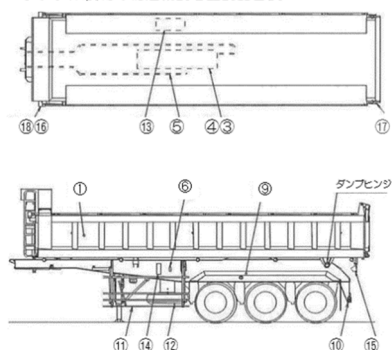
1. リサイクル設計の推進

- (1)易解体性向上および適正処理の推進
〔目標：易解体性バンの試作、製品展開〕

- (2)適正処理困難材(木材、断熱材)の代替材検討
〔目標：製品展開〕

- (3)解体マニュアル作成
〔目標：主要3機種の大半をカバー〕

1. ダンプ架装物の構造概要と主要部品表



解体部品

進捗状況

- 各社にて各種易解体性バンの開発、製品化を展開中。
- 易解体性バンは2016年度車工会員バン生産の91.1%(71,832台)
- 易解体性向上のため、解体業者団体と連携して平ボデー、バン型車等の解体作業見学会を実施、解体時間短縮のための課題を抽出、製品に反映し架装メーカー各社にフィードバック。



- 木材：冷蔵・冷凍バンを中心に木材不使用および木材使用量削減、断熱材との混合使用を削減した生産を拡大中。
- 断熱材：ノンフロンのスチレン系断熱材に主要メーカーは切替済。

- 解体事業者等から要望のあった、主要3機種(レントゲン車、冷蔵・冷凍バン、タンクローリ)の解体マニュアルについて対応完了。

- 車工会員主要各社ホームページにて掲載取り扱い説明書等についても公開中。
177件・42社(前年比+7件)

- 解体事業者団体と連携、解体作業見学会を通じて得た作業実態をマニュアルへ反映。



2. ダンプ架装物の解体マニュアル

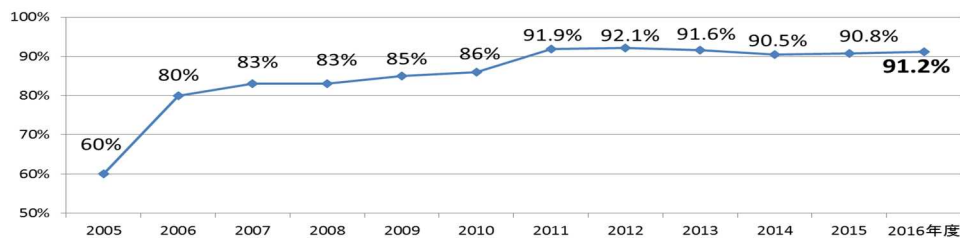
品目番号	品目名称	解体方法	注意事項
	事前処理Ⅰ	ダンプ荷台が空であることを確認し、外装部品を取外して下さい。 (サイドガード、スベアタイヤ、ツールボックス、リヤフェンダ等)	取扱説明書の安全のために参照願います。
	事前処理Ⅱ	荷台が下りた状態(走行状態)で作業します。 シリンダとゴムホースの接続部を外し、作動油を抜いて下さい。 オイルパンは油圧機器を取り外すまで用意して置いて下さい。	作動油を受けるためのオイルパン等を用意して下さい。
車両全体	ダンプヒンジ	ダンプヒンジのピン又はシャフトを抜いて下さい。	周囲の安全を確認して下さい。
15	外装部品	取り外し、分別して下さい。	
16	飛散防止装置	取り外し、金属類とシート類に分別して下さい。 電動モーターが有る場合は配線も分別して下さい。	荷台に溶接取付されている場合があります。
17	テールゲート等のパッキン	荷こぼれ防止のため、パッキンが装着されている場合は金属類とゴム、樹脂類に分別して下さい。	パッキンが接合されている場合があります。
18	天蓋	飛散防止装置のため、手動式、油圧式等の天蓋が付いている場合は金属類とゴム、樹脂類に分別して下さい。	荷台に溶接取付されている場合があります。

(4)環境基準適合ラベルの設定
〔目標：車工会会員生産車の80%に貼付〕

＜環境基準適合ラベルの要件＞

- ①3R判断基準ガイドラインの作成
- ②解体マニュアルの作成・公開
- ③製造業者名の表示
- ④樹脂部品材料名の表示

2004年3月、環境基準適合ラベルの要件を設定し、2005年度以降、毎年目標80%を達成済み。



バン型車の表示例

※2016年1月より、環境基準適合ラベルは、環境省ホームページ「環境ラベル等データベース」へ登録、掲載中。

2. 環境負荷物質の使用削減

(1)鉛

〔目標：使用量 2002年度60g/台
→2006年度30g/台に半減〕

(2)水銀

〔目標：2005年1月以降使用禁止(照明装置等を除く)〕

(3)六価クロム

〔目標：2008年1月以降使用禁止〕

(4)カドミウム

〔目標：2007年1月以降使用禁止〕

＊環境負荷物質対応状況は車工会会員
主要各社ホームページで公開。

2005年度より目標達成を継続。

＜鉛フリー化の事例＞ダンプ、タンクローリ等の電着塗料への切替＞

2004年末より目標達成を継続。

＜水銀フリー化の事例＞高所作業車の水平保持用のスイッチ＞

2007年末より目標達成を継続。

＜六価クロムフリー化の事例＞金具類(例：蝶番、ボルト、ナット、油圧ホースガードワイヤ)

2006年末より目標達成を継続。

＜カドミウムフリー化の事例＞マーカーランプ、タンクローリ自動開閉装置の温度ヒューズ＞

3. 円い・適正処理の推進

(1)協力事業者制度の構築と拡充

〔目標：制度への登録拡充と〕



協力事業者について、全国各ブロックへの適正配置を継続。

解体事業者の要望をふまえて丸ごと処理事業者ならびにタンクローリ残液の分析・処理・洗浄事業者も維持。

協力事業者の状況を定期的に把握し、必要に応じ車工会ホームページを更新、情報提供を継続。



4. 情報提供、啓発活動の推進

(1)協力事業者参加事業者リストの作成・配布。

解体事業者等に配付。(4月：10,000部)

(2)解体事業者への情報提供。

商用車架装物処理に関して解体事業者団体等と解体作業現場の見学会・意見交換を継続(7月)。

また、解体事業者団体に対してシャシー・架装物工場見学会を実施予定(11月)。

※2018年度についても実施予定